

風早の本だより

北条高等学校図書委員会

《9・10月号》

平成27年10月26日発行



3-4 尾中美穂
3-5 菅 楓佳
2-3 大本拓実
1-2 有田太恵

中間考査も終わりましたね。みなさん、結果はどうでしたか？考査の反省をし、また次の目標に向かってがんばりましょう。

さて、季節はすっかり秋らしくなってきました。スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、そして読書の秋です。秋の夜長に、お気に入りの一冊をじっくり味わってみませんか。

今回の本だよりでは、文学賞特集と題して、おすすめの本を紹介します。

文学賞特集



【第153回 芥川賞受賞作品】

①「スクラップ・アンド・ビルド」 羽田 圭介

図書委員の感想より

長く生きることは本当に幸せなのか、いいことなのかを考えさせられる作品でした。高齢化や介護問題は身近な問題なのだと思います。「祖父」が演技で死にかけの老人をしているのか、本当に死にたいと思っているのかが、最後までわからないのが印象的でした。人生について考えさせられる作品です。



303 猪田朱音

②「火花」 又吉 直樹

芥川賞の選考委員の書評より

「火花」の「僕」を、そして「先輩」を、私はとても好きになりました。こんな人たちと同僚だったり血縁だったり親密な仲になったりしたら大変だよ、と内心でどきどきしながら、それでも好きになったのです。人間が存在するところにある、矛盾と喜びと、がっかりと、しょぼい感じと、輝くような何か（それはとてもささやかなものですが）が、たくさんありました。（川上 弘美）



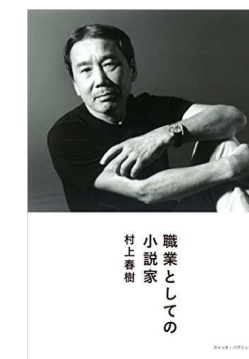
読み始めると、生硬な「文学的」な表現のなかに純でひたむきなものを感じ始めた。お笑い芸人である青年が尊敬する先輩の芸論が、やがて本来のところからずれていくことへの幻滅も、ほとんどが日の目を浴びずに消えていく若い芸人たちの挫折も、又吉さんは抑えた筆でよく書き切っている。（宮本 輝）

【ところで芥川賞とは？】

小説家の芥川龍之介の業績を記念して、芥川と関係が深かった文芸春秋社が創設した文学賞です。現在は日本文学振興会が主催し、年2回、1月と7月に発表されます。対象は比較的無名の純文学の新人作家です。純文学とは、娯楽的要素より、純粋な芸術を目指した作品という意味で、選考委員は9人の作家です。

【他にも】

ノーベル文学賞受賞が期待されている、というニュースが毎年取り上げられる村上春樹さんの随筆が新しく図書館に入りました。村上春樹さんの意外な素顔を発見できそうです。ぜひ手に取ってページをめくってみてくださいね。



☆新着図書一覧☆

	書名	著者名	出版社
1	職業としての小説家	村上 春樹	スイッチ・パブリッシング
2	スクラップ・アンド・ビルド	羽田 圭介	文藝春秋
3	フランス人は10着しか服を持たない	ジェニファー・L・スコット	大和書房
4	海賊と呼ばれた男(上)	百田 尚樹	講談社文庫
5	海賊と呼ばれた男(下)	百田 尚樹	講談社文庫
6	十二の肖像画による十二の物語	辻 邦生	PHPエディターズ
7	鹿の王(上)	上橋 菜穂子	KADOKAWA
8	鹿の王(下)	上橋 菜穂子	KADOKAWA
9	ギンカムロ	美奈川 護	集英社文庫
10	数に強くなろう ピーター流 数学あそび	ピーター・フランクル	岩波ジュニア新書
11	大学で大人気の先生が語る〈恋愛〉と〈結婚〉の人間学	佐藤 剛史	岩波ジュニア新書
12	新・天文学入門	嶺重 慎・鈴木 文二	岩波ジュニア新書
13	夏目漱石、読んじゃえば？	奥泉 光	河出書房
14	修造ドリル	松岡修造	アスコム
15	希望の海へ	マイケル・モーパゴ	評論社
16	マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女	マララ・ユスフザイ	岩崎書店
17	ペンギンが教えてくれた物理のはなし	渡辺佑基	河出ブックス
18	上野公園へ行こう	浦井 正明	岩波書店
19	はじめての文学講座	中村 邦生	岩波書店
20	ABO 血液型からわかる科学	山本 文一郎	岩波書店
21	14歳からの戦争のリアル	雨宮 処凛	河出書房新社
22	生き延びるための作文教室	石原 千秋	河出書房新社
23	観光ガイドになるには	中村 正人	ペリかん社
24	自動車整備士になるには	広田 民郎	ペリかん社
25	日本列島人の歴史	斎藤 成也	岩波書店



10月27日～11月9日は読書週間です。

読書週間の歴史

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。

そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていききました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

お知らせ

図書委員会では、現在、みなさんにより活用してもらえる図書館にするため、「図書館レボリューション」と名付けた企画を進めています。

ぜひ図書室へ足を運んでみてください。一冊の本との出会いから、あなたにもレボリューションが起こるかもしれません。

